1988年に入院調剤技術基本料（現在の薬剤管理指導料）が新設されてから、20年余りが経過した。その間、医薬品の適正使用、患者サービスの向上、チーム医療の充実など、薬剤管理指導業務は病院薬剤師の職能が最も発揮できる業務として定着し、さらに広がりを持ったものへと発展している。しかも現在、医師不足を背景に、チーム医療をはじめ、その職種ではなくても行い得る業務を他の職種に担わせる「スキルミックス」の検討が急速に進められており、薬剤師にとっても飛躍に向けたチャンスを迎えている。

職能向上で「専門薬剤師」育成

病院薬剤師編

その昔、多くの病院薬局は、ひたすら調剤や院内製剤の製造・調整を行っていた。薬局窓口は１階だが、大病院の調剤室は多くが地下に設けられ、医師や看護師との接触もなかった。

その流れが大きく変わったのは、88年に行われた「入院調剤技術基本料」の新設。診療報酬の調剤技術基本料の一項目として設けられたものだが、94年には「薬剤管理指導料」に名称が変更され、「調剤料」から「管理指導」へと、業務内容も確固としたものとなった。それをきっかけに、病院薬剤師は調剤室から病棟・病床へと進出していった。

20年余りが経過した現在、薬剤師が病棟カンファレンスなどに参加し、医師や看護師らと共に、入院患者の治療計画など意見交換する姿は、一般的な一コマになりつつある。

もちろん現実は、理想とほど遠いケースも見られる。マンパワー不足がその一番の要因だ。しかし、医療事故の多発や社会問題化などを背景に、医薬品の適正な管理・使用に対し、改めて専門家への期待が高まり、この数年来、相対的に病院薬剤師の人員は増加傾向にある。

病院薬剤師の業務も、いまや薬剤管理指導を中心とした病棟業務のほか、治験の総合的な管理をはじめ、救命救急センター、ＩＣＵ、ＮＩＣＵなどといった院内でも特に緊急を要する部門、あるいは外来の化学療法センター、緩和医療を支えるスタッフとして、様々な場面でチーム医療を支える存在になりつつある。それだけ、臨床現場ですぐに役立つ高度な知識・技能を備えた専門家が必要とされている。

その流れの中、病院薬剤師の多くが「専門薬剤師」を目指し、研鑽を積んでいる。日本病院薬剤師会では、「がん専門薬剤師」「感染制御専門薬剤師」に加え、昨年、新たに「精神科専門薬剤師」「妊婦・授乳婦専門薬剤師」「ＨＩＶ感染症専門薬剤師」をスタートさせ、合わせて５領域で認定・専門薬剤師の育成を行っている。このほかにも、日本緩和医療薬学会が薬局薬剤師も対象にした「緩和薬物療法認定薬剤師」の認定試験を10年１月から開始する。

幅広く対応できるジェネラリストとしての薬剤師と同時に、進化し続ける医療に対応していくためには、専門薬剤師も欠かせない。病院薬剤師の職能を十分に発揮し、治療成績や患者のＱＯＬ向上に結びつけるために、チャレンジに向けた次なるステージが始まっている。

業界の最新事情

ここ数年、小売業態の多くが消費低迷の影響を受ける中にあって、ドラッグストア業界は順調な規模拡大を続けてきた。やや成長が鈍化してきたとはいえ、各種の実態調査からは、依然として店舗数・店舗規模ともに増加傾向にあるのは間違いない。しかし、今後の経営環境の厳しさを懸念する声も増してきた。今年春の改正薬事法施行で、「登録販売者」制度が導入されることにより、異業種による医薬品販売への参入が活発化することが予想されるからだ。

目立つ“持ち株会社化”の動き

ドラッグストア編

昨年は大手企業を中心に、再編に向けたＭ＆Ａ（買収・合併）の動きが加速してきた。春には、セイジョーとセガミメディクスの両大手ドラッグストアが経営統合し、「ココカラファインホールディングス」を設立した。また９月には、ウエルシア関東と静岡の高田薬局が経営統合し、「グローウェルホールディングス」を設立。さらには、スギ薬局も持ち株会社「スギホールディングス」に移行した。今年３月には、神奈川を地盤とするクリエイトエス・ディーも、持ち株会社（ＨＤ）への移行を予定している。

マツモトキヨシＨＤ、ツルハＨＤ、アライドハーツＨＤというように、主要な大手ドラッグ企業は既に持ち株会社へ移行している。その目的は、持ち株会社を核として業務提携や事業譲渡、合併がしやすいこと、意思決定の迅速化、グループ各社のノウハウや人材資源の共有によるシナジー効果で、店舗競争力を強化していくことにある。

生き残りを目指して、新たな業態を模索する動きも目につく。

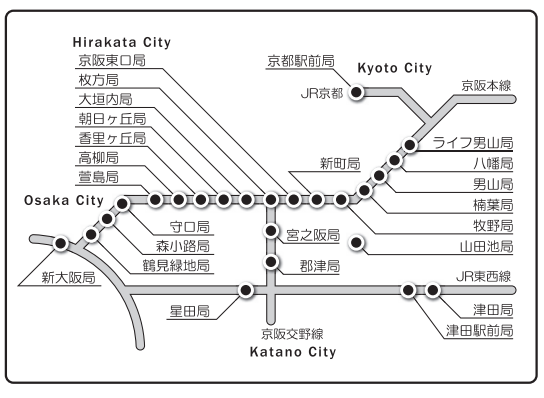
調剤併設型がその１つで、日本チェーンドラッグストア協会の07年度「日本のドラッグストア実態調査」では、会員企業（178社が回答）の調剤対応店舗比率は24.2％と、着実に増加している。医薬品をはじめとしたヘルスケア関連品に、処方せん取り扱いをプラスした専門性は、他業態にない〝強み〟といえる。

さらには、薬剤師や管理栄養士が連携し、地域住民に対し健康相談・栄養相談会などを開催するケースも、珍しくなくなった。また、店舗にエステティック機能を併設するケースも増えてきた。

多角化に向けては、スギＨＤが９月１日付で、医療サービス専門会社「スギメディカル」を設立したが、11月からは調剤併設型ドラッグストア店舗に、訪問看護ステーションを開設し、訪問看護事業へも進出した。スギメディカルでは、終末期にも対応する在宅医療事業、訪問看護事業、治験事業などを手がけるが、ドラッグストアが地域の医療、介護、福祉を支えていくという専門性強化に向けた取り組みは、ドラッグ企業として初の試みで、今後の展開が注目される。

生涯研修認定制度認証　薬剤師あゆみの会　参加法人
サンプラザ調剤薬局グループ

私たちサンプラザ調剤薬局グループは、創業30年の経験を生かし、地域に密着した調剤薬局チェーンとして、京阪沿線を中心に現在24店舗を展開し、地域社会の医療チームの一員として地域のみなさまの健康維持に貢献を続けています。



●月例社内勉強会
●医師・薬剤師合同研修会
●卒後薬剤師育成研修
●日本薬剤師会学術大会発表

薬学6年制に対応した薬剤師 育成教育

サンプラザ調剤薬局グループ
大阪府枚方市岡東町12-1-604
フリーダイヤル 0120-64-1103
Eメール　personnel@sun-plaza.co.jp

http://www.sun-plaza.co.jp

元氣創造

医薬品

医薬品

● 滋養強壮　● 虚弱体質

湧永製薬は日本専門薬局同志会（日専同）を応援しています。

日本専門薬局同志会についてのお問い合わせは
TEL 03-3259-1008
日本専門薬局同志会（日専同）事務局まで

湧永製薬株式会社　大阪市淀川区宮原4丁目5-36
http://www.wakunaga.co.jp/